

SCOPIA MCUシリーズ付属Web会議用サーバソフトウェア[※] PCからいつでもどこでもテレビ会議参加



- SCOPIA MCUによるテレビ会議専用端末とPC混在会議
- HD(720p)、SD16画面(384Kbps)対応
- クライアントPCへのソフトウェアインストール無制限
- デュアルビデオ(H.239)機能:720p対応
- コンテンツスライダー機能
(データレビューH.239コンテンツスライド)
- スケジューリング・予約
(Microsoft Outlook、IBM Lotus Notesプラグイン)
- Firewallトラバースル機能ビルトイン
- ストリーミング機能

※VTV ジャパンでは、会議管理ソフト (iVIEW Suite)、ゲートキーパー (ECS Pro)、Web 会議機能 (SCOPIA Desktop)、モバイル参加 (SCOPIA Mobile) をセットにした bundle 版をご提供します。

PC からカンタンテレビ会議に参加

Web カメラとヘッドセットを用意するだけで、手持ちの PC がテレビ会議端末として会議に参加できます。Firewallトラバースル機能搭載で、社外、出張先、自宅など、いつでもどこからでもテレビ会議に参加することができます。



PC へのライセンスインストール無制限

SCOPIA Desktop がインストールされたサーバに、PC からブラウザでアクセスしてソフトウェアをダウンロードするだけで、PC から SCOPIA MCU で開催する専用端末との多地点会議に参加することができます。クライアント PC へのソフトウェアインストールは無制限、だれでも会議に参加できます。



HD 品質で接続。H.264SVC にも対応

PC接続時においても HD(720p) をサポート、SD なら 16 分割画面 (384Kbps) で接続でき、専用端末と同等のテレビ会議が簡単に行えます。また、品質が予測できないネットワーク環境下でも画像品質を高めることのできるプロトコル「H.264SVC」にも対応し、快適なテレビ会議が行えます。



レビュー機能で資料共有を快適に

デュアルビデオ (H.239) に対応し、専用端末とのプレゼンテーション共有が可能です。共有資料のレビュー機能「コンテンツスライダー」を使えば、配信されたプレゼン資料をさかのぼって確認、見たい資料を自由に閲覧できます。またストリーミング機能を使えば、最大 600 ユーザーがテレビ会議の視聴・資料の閲覧ができます。



Avaya について

Avaya SCOPIA ビデオ会議ソリューションは、1992 年に設立された RADVISION 社の革新的なビデオ会議製品としてスタートしました。多地点接続装置やネットワーク製品を中核に、ビデオ会議ソリューションを提供しています。現在は、Avaya のビデオ事業部門として同社のユニファイド・コミュニケーションビジネスの一翼を担っています。

VTV ジャパンについて

1995 年設立以来、テレビ会議・Web 会議システムの機器販売、およびレンタル、同システムに関する保守サービスを提供する、テレビ会議関連製品に特化したマルチベンダーです。国内および海外のさまざまな法人・団体へ導入実績があります。2010 年より自社独自開発によるテレビ会議カスタマイズソリューションの提供も開始しました。



詳細はホームページでも
ご紹介しています。

VTV サイト : www.vtv.co.jp/product/radvision/scopiadesktop.html
Avaya 製品サイト : www.vcsolution.jp/endpoint/scopiadesktop.html

SCOPIA Desktop 構成



SCOPIA Desktop 製品仕様

ビデオサポート

- ・ H.264 最大 720p に対応した HD ビデオ
- ・ CPU 認知機能を内蔵
- ・ H.264 SVC を利用した高いネットワーク耐性
- ・ H.264 最大 720p に対応した HD プレゼンテーション

ミーティングのタイプ

- ・ 会議主催者なしのミーティング (誰でもミーティングを制御可能)
- ・ 会議主催者型のミーティング (ミーティングの制御には会議主催者用の暗証番号が必要)
- ・ パーソナルバーチャル会議室

データコラボレーション

- ・ クライアントにビルトインされた H.239 ベースのデータコラボレーション
- ・ 会議室のシステムに最適なデータコラボレーションフォーマット (H.263+・H.264 HD)
- ・ 1 箇所の会議室システムから共有されたデータが、他の会議室やデスクトップなど全てのクライアントで参照可能
- ・ 1 台のデスクトップから共有されたデータが他のデスクトップや会議室など全てのクライアントで参照可能
- ・ スクリーン全体、あるいは特定のアプリケーションの共有

レイアウト

- ・ ビデオ、あるいはデータ中心のレイアウト
- ・ ビデオとデータを並列に表示するレイアウト
- ・ フルスクリーンビデオやデータ会議に適した自動レイアウト

ユーザ制御機能

- ・ 音声のミュート、アンミュート
- ・ ビデオの停止、一時停止、スタート
- ・ ローカルのセルフビューの表示、停止
- ・ ビデオレイアウトの選択 (アクティブスピーカーあるいは画面分割)
- ・ システムからの音声あるいはビデオ専用端末コールバック
- ・ 一元管理されたコンファレンス参加登録者の参照 (デスクトップおよび会議室)
- ・ DTMF キーパッド

管理

- ・ コールの帯域管理
- ・ 集中監視

会議主催者の制御

- ・ 会議主催者権限の取得 (会議主催者用 PIN 番号が必要)
- ・ ミーティングのロック
- ・ 会議の終了
- ・ 会議室システムあるいは電話機の招待 (ダイヤルプラン)
- ・ ストリーミングの開始、停止
- ・ 任意の参加者の消音、消音解除、切断
- ・ 会議での発言、挙手要求

NAT およびファイアウォールとラバーサル機能

- ・ 追加コストなしでファイアウォールトラバーサル機能を内蔵
- ・ ローカルとリモートのファイアウォールを通過させ接続性を確保
- ・ ローカル及びリモートの NAT プライベートネットワークを自動処理
- ・ 最適なメディアパスの自動検知: UDP、TCP あるいはトンネル化された TCP

ビルトインのストリーミング

- ・ ストリーミングサーバ機能内蔵で「視聴のみ」の参加に対応
- ・ 音声、ビデオおよびデータチャンネルの同時ストリーミング
- ・ マルチキャストもしくはユニキャスト接続モード

スケジュールリングと予約機能

- ・ 容易なミーティングのスケジュールを可能にする Outlook と Notes 用プラグイン
- ・ どのようなブラウザからもウェブベースでミーティングスケジュール可能
- ・ ミーティング開催のためのポート予約可能

録画と再生 (オプション)

- ・ 高画質での音声、ビデオ、データ、および注釈の録画
- ・ 再生時は、ウェブを経由の容易なアクセス
- ・ PIN 入力によるアクセス時のセキュリティ対策
- ・ 誰でも録画できる権限もしくは管理者による制限
- ・ オフラインで視聴可能な録画保存機能

クライアントの接続モード

- ・ 双方向通信を利用したライブ接続モード (音声、ビデオ、データ)
- ・ SCOPIA Desktop 間の接続向け P2P コール
- ・ SCOPIA Desktop サーバ接続向けグループ会議
- ・ P2P コールからシームレスに複数参加型会議への移行
- ・ 会議主催者機能としてのデータのみ接続、オプションでのコールバック機能
- ・ 双方向通信を利用しない視聴のみ参加者向けストリーミングモード (音声、ビデオ、データ)

標準と相互接続

- ・ SCOPIA との H.323 相互接続
- ・ SIP での P2P コール
- ・ STUN NAT トラバーサル

セキュリティ

- ・ SRTP 暗号化
- ・ 待合室機能 (会議主催者がセッションに参加するまでミーティングは開始しません)
- ・ バーチャル会議室が使用可能なオプションモード (ミーティング用に事前設定されたバーチャル会議室のみ)
- ・ ミーティング参加者によるコールバック機能の誤用を避けるために機能を無効にすることを選択可能
- ・ ユーザ認証

クライアントコンピュータの動作環境

- ・ オペレーティングシステム: Windows® 2003, Windows® XP, Windows® Vista™, Windows® 7, MAC® OS-X
- ・ ブラウザ: Internet Explorer, Firefox, Safari

SCOPIA Desktop Pro 追加機能

プレゼンス機能を搭載したコンタクトリスト

- ・ コンタクトリストへお気に入りのユーザとルームの作成
- ・ 集中管理された内蔵型ディレクトリ
- ・ ディレクトリからユーザ、ルームシステムを招待
- ・ 別のユーザディレクトリへのコール
- ・ アドホック会議へユーザを複数選択し招待
- ・ 他のユーザへ自分のプレゼンスを公開
- ・ 簡単な設定のみで自分のバーチャル会議室を作成・接続

ミーティングのタイプ

- ・ デスクトップとデスクトップ間でのコール

ディレクトリと認証

- ・ ユーザとゲストのポリシー
- ・ ローカルにキャッシュされた分散型ディレクトリ
- ・ Microsoft Active ディレクトリや IBM Lotus Domino
- ・ デスクトップとデスクトップ間でのコール
- ・ 組み込まれた Windows 認証